

女性が活躍する社会がつくる、未来

今号は「社会慣習」や「偏見」から解放されて、自分らしい人生を生きるための参考になる図書のご紹介です。
性別にかかわらず、だれもが多様な生き方を選択できる「持続可能な未来」の実現をともに目指していきましょう。

※書籍右横の番号はセンターでの検索番号です。



わたしの人生は、
わたしのモノ

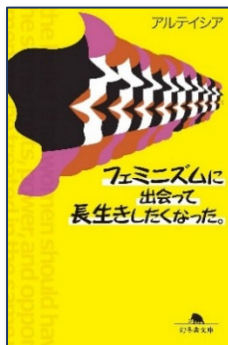
2020 年 朝日新聞出版

小島貴子（著）

[100-4]

今、女性たちは皆、希望通りの「活躍」をし、その成果を上げているといえるのか？ 確かに、柔軟にチャレンジし、イキイキと生きている女性も多いが……。

本書の前半は、「わたしの人生をわたしのモノにする」ための「11の項目」について、それぞれの具体例があり、自分に引き寄せて実践することができる。後半は、著者と「輝き続ける女性6人」との対談が収録され、チャレンジの先の「なりたい自分」を重ねることもできる。本書を開いて一歩踏み出し、今日から「自分が活躍する未来」を創造しよう。（ルナ）



フェミニズムに出会って
長生きしたくなった。

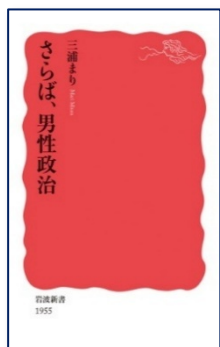
2021 年 幻冬舎

アルテシニア（著）

[400-2]

「毒親」の下で育ち、男尊女卑社会でハラスメントの標的にされ、自尊心が息も絶え絶えになっていた著者。あるときフェミニズムに出会い、生きる力を取り戻す。そして、この世からあらゆる差別やハラスメントをなくしたいと思うようになる。みんなでアップデートして、社会全体が変わるように。

私たちも仲間を見つけて、こういう話をしていこう。みんなが誰かを見下さず、対等な人間として向き合える社会になれば、女性も女性以外の人も、生きやすくなる。きっと未来が開けていく。（こなつ）



さらば、男性政治

2023 年 岩波書店

三浦まり（著）

[700-7]

「ジェンダー平等後進国」であると認識されている日本。政治・経済分野での意思決定層における女性の割合は低く、女性の声が届きにくくなっている。男性優位で構成された社会は女性の地位向上を阻み、男女間の経済格差も拡大させてきた。女性も男性もマイノリティーも、あらゆる人々が自由に生きやすい未来を構築するために、私たちが優先すべき問題はどこにあるのだろう。その問いに本書が応える。過去を検証して現在を評価し、男女平等の未来へと続く著者の提言を参考に、この先も前を向き続けていこう。（みっと）



NHK連続テレビ小説
虎に翼（上）
虎に翼（下）

2024 年 NHK出版

吉田恵里香（作）
豊田美加（ノベライズ）

[1200-2]

昭和6年に17歳であった主人公は、女の一番の幸せは結婚だと決めつけられることが納得できない。女性を受け入れる大学ができ、岩を穿（うが）つ雨垂れのように努力を重ねて初の女性弁護士に。

戦後、「法の下での平等」を確立するための民法改正や家庭裁判所の設立に関わり、女性初の裁判所所長へ。

主人公は特別な女性ではないが、常識を疑い、時代が許さなかった女性の可能性に挑み続けた。

私たちはやがて古くなる常識を疑い続けられるか、「はて？」と。（ぼっと）